

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 永犬丸 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

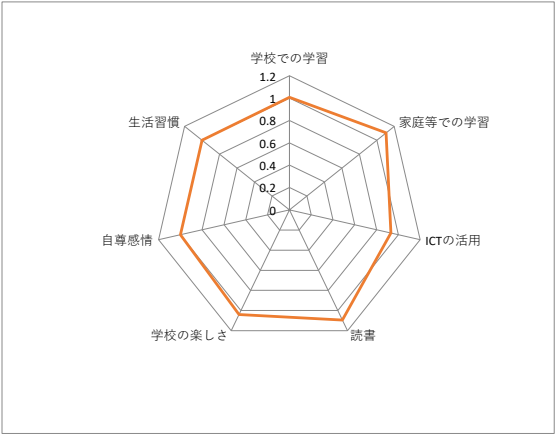
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識及び技能の、どの区分においても高い正答率であった。中でも、特に言葉の特徴や使い方に 関する事項についての平均正答率が高く、普段の学習の中で身に付けるべき知識が定着していること がわかる。また、思考力、判断力、表現力も同様に、どの区分でも高い正答率であった。問題形式で は、記述式の正答率が全国平均をより上回っていた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す問題についての正答率が高く、聞き手の興味・関心な どを考慮して、表現を工夫することができていた。	上回っている
	努力が必要な問題	話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する問題については全国平均を若干下回っており、 論理の展開などに注意して聞く力を今後身に付ける必要がある。	
数学	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域の中では、特に数と式の正答率が高かった。また、問題の形式では選 択式の問題が全国平均を大きく上回っていた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	4 2を素因数分解する問題の正答率が全国平均を大きく上回り、自然数を素数の積で表すことができる力が身に付 いている。 箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ問題も	上回っている
	努力が必要な問題	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する問題の正答率は、全国平均と差はなく、結 論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし、説明する力を身に付ける必要がある。	
理科	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域では、「生命」を柱とする領域の正答率が高かった。問題形式では、 記述式の正答率が高く、全国平均を上回っていた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理 由を説明する問題の正答率が高く、節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連 付けて、体のつくりと動きを分析して解釈する力が身に付いている。	上回っている
	努力が必要な問題	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する問題の正答率が他の問題に比べ著しく低 いため、力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明で きる力を身に付ける必要がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と9割近くの生徒が回答しているが、「1，2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問に対し、週3回以上と回答した生徒の割合が半分に満たない結果であった。時間や更新の具合によって接続の状態が著しく悪いときもあるため、活用頻度が下がっていることが原因として考えられる。教育委員会から助言をもらいながら、今ある環境下でどうすれば効果的に活用できるのかについてを職員全体で共有していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

基礎学力向上のための取組として、「小テストや補足説明をする。」、「テストの反省・解説を行う。」、「定期考査の中にアンケート（分からないことや知りたいこと）をつけて、その結果を授業で還元する。」、「放課後教室などを活用したきめ細やかな指導」など、教科ごとに取り組んでいる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 生活ノートに毎日の家庭学習の時間を記入させ、時間の少ない生徒には個人的なアドバイスや声かけをするよう心掛ける。
- 毎時間の予習・復習の大切さを機会があるごとに説明し、自学ノートの内容の記入の仕方などをアドバイスする。
- ノートのまとめ方が優秀な生徒のノートなどを紹介し、家庭学習の動機付けを行う。